

オイワケクロコメツキの形態について

大 平 仁 夫

Notes on the Morphological Structure of *Ampedus* (*Ampedus*)
oiwakensis (Coleoptera, Elateridae) from Japan

Hitoo ÔHIRA

National Institute for Physiological Sciences,
Okazaki, 444 Japan

Abstract *Ampedus* (*A.*) *oiwakensis* ÔHIRA, 1974, was originally described from Asama-kôgen, Gunma Pref., Honshu, based on two male specimens. Some important structures of this unique species examined by SEM-images (Fig. 2) facilitate its recognition. Female characters are reported for the first time.

オイワケクロコメツキ *Ampedus* (*Ampedus*) *oiwakensis* ÔHIRA, 1974 は、群馬県の浅間高原で採集された 2 雄個体にもとづいて、1974 年に筆者が新種として記載した体長 10 mm 内外の黒色の種である。しかし、原記載から今日まで、本種についての記録は青森県があるだけで、本種の実体についてはほとんど知られていないし、雌個体については不明であったので、ここに雌雄の形態について明らかにしておきたいと思う。

本文を草するにあたり、標本について種々ご支援をいただいた東京都の鈴木 互博士に心から感謝の意を表す。

成 虫 の 形 態

雄. 体長は 9~10 mm 内外. 体は幅広くて両側は平行状, 黒色で光沢を有し, 前胸背板はオパール色の光彩を欠く. 触角は黒色 (基部 3 節は黒褐色) で肢は黒色~黒褐色 (跗節は暗褐色). 体下面は黄褐色毛を, 体背面は黒色毛を生ずる. また, 頭部と前胸背板上にはやや長い毛を叢生する.

前頭横隆線の前縁中央部は抑圧されて扁平状, 縁取りは弱く, やや V 字形状を呈する (Fig. 2 I). 触角は短かく, 末端は前胸背板の後角よりやや長い程度である. 第 2 節は短小で幅よりやや長く, 第 3 節は第 2 節の約 1.5 倍の長さで倒円錐形状, 第 4 節は多少とも鉞状を呈し, 第 3 節の約 1.7 倍の長さ, これら第 2, 3 節を合わせたものは第 4 節よりわずかに長い (Fig. 2 E).

前胸背板は梯形状で, 幅と長さはほぼ等しい. 背面は膨隆し, 円形の深い点刻をまばらに一樣に分布する (Fig. 2 B). 後角はやや後外方に突出し, 背面には明瞭な 1 隆起線を有する (Fig. 2 C). 小盾板は楕円形状で幅より長く, 両側は湾曲して末端に向かい漸次細まる (Fig. 2 D). 前胸腹板突起は, 前肢

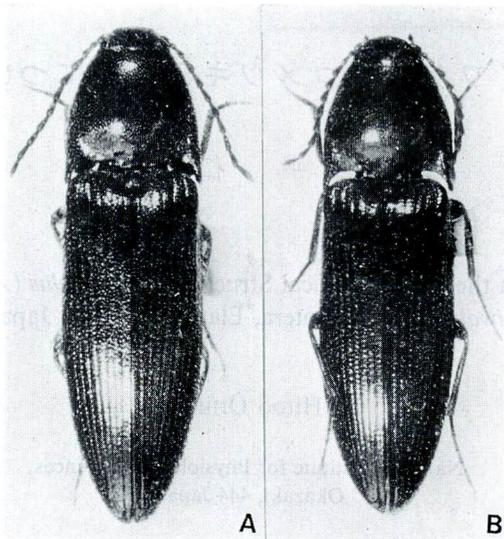


Fig. 1. *Ampedus (A.) oiwakensis* ÔHIRA; A, male from Yamanashi Pref. (body length 9.5 mm); B, female from Yamanashi Pref. (body length 10 mm).

基節腔を越えて弱く内方へ湾曲し、末端近くで直角状に段刻されて細まる (Fig. 2 M).

上翅の条線はやや浅く印刻されるが、深い点刻を列生する。間室部は扁平状で、小点刻と弱いしむを生ずる。腰板は図示したようで、内方部は幅広くて両側は平行状、外縁の中央部で鈍く角ばり、外方へ漸次細まる (Fig. 2 H).

雄交尾器の末端部の背面からみた外形は図示したようである (Fig. 2 J)。中央突起は末端に向かって漸次細まり、表面には小点刻を散布する (Fig. 2 K)。側突起の末端部は細長い三角形状で、外縁は直線状に外角部へ伸長、外角部には 10 個内外の小段刻を生ずる (Fig. 2 L)。

雌。一般外形は雄に類似するがやや大形で、体長は 11 mm に達する個体がある。触角はより短かく、末端は前胸背板の後角より明らかに短い。また、第 3 節はより細長く、第 4 節は鉞状をしていない (Fig. 2 G)。内部生殖器の bursa copulatrix の袋内にある刺毛片は細長く、30 本内外を生ずる。刺毛片の 1 本の外形は図示したようである (Fig. 2 N)。

あ と が き

本種は、上翅が黒色をした本属の種のうちでは幅広い体形を有し、触角の第 3 節が短小であるなど、比較的特徴がつかみやすいように思われる。また、筆者が判断したところでは、本種は中部山岳地帯から東北地方にかけての山岳地帯に広く分布しているようである。

なお、ここに図示した成虫の雌雄個体 (Fig. 1 A-B) は、山梨県北巨摩郡須玉町増富において、1971 年 5 月 23 日に山口就平氏が採集されたもので、分解図 (Fig. 2) も上記と同じ場所で 1970 年 5 月 24 日に採集されたものを示した。

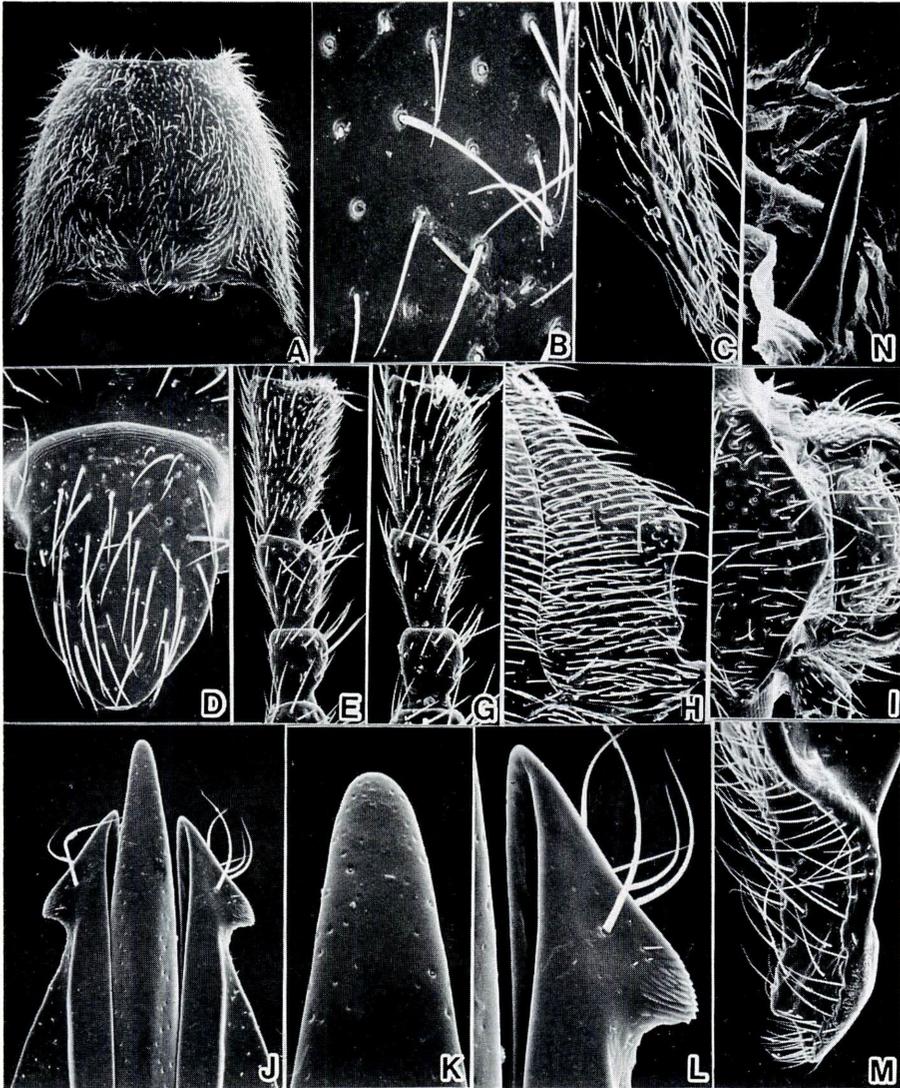


Fig. 2. *Ampedus (A.) oiwakensis*, male (except for G and N which are females). — A, Pronotum, dorsal aspect; B, some punctures on the disk of pronotum; C, hind angle of pronotum; D, scutellum; E, G, 2nd to 4th segments of antennae; H, basal plate; I, clypeal margin; J, aedeagus, dorsal aspect; K, same, median lobe (enlarged); L, same lateral lobe (enlarged); M, prosternal process, lateral aspect.

引用文献

ÔHIRA, H., 1974. New or little-known Elateridae from Japan, XIX (Coleoptera). *Trans. Shikoku ent. Soc.*, 12: 56-59.